

戦争も核兵器もない世界を

原水爆禁止2015年世界大会・長崎

増え続ける残業、職場マネジメントも限界

緊急異常事態！ 待ったなし！

「広島・長崎を繰り返すな」の熱気を実感

私はこのたび、初めてこのような大会に参加させていただきましたが、会場の熱気に圧倒されたという

レポート
原水爆禁止世界大会2015
in長崎に参加して思うこと

健康福祉支部 辻 強志

8月4～6日の広島に続き、7～9日に長崎市内で「原水爆禁止2015年世界大会・長崎のつどい」が開催され、20ヶ国147人の海外代表を含む約5000人が参加し、安倍政権の「戦争する国」づくりを許さず、核兵器のない世界をめざす揺るぎない世論と運動をいっそう飛躍させようとの決意を固めました。府職労からは辻強志さん（健康福祉支部）と小松書記長が代表参加しました。



「1万人署名」のとりくみを報告する長崎の高校生たち

が正直なところの第一印象でした。

しかし、広島に人類史上初めての原子爆弾が投下された後にはこの長崎の地にも投下され、そのわずか6日後に終戦を迎えたという激

動の年から70年という節目の年に参加できたことを光栄に思います。

一日目は本大会の開会式。日本全国から志を同じくする人たちが長崎の地に集結する中、国連の役員の方々をはじめ、世界各国の関係者など数多くの方々が出席し、世界的な関心の高さを実感しました。考えてみれば当然でした。日本は今、我が国の国是といわれている憲法9条を壊そうとしています。日本が戦争する国になってしまつたらどうか、世界中から注目も集まっていることでしょう。そのような中、本大会に参加している人々の思いは一つ。広島・長崎の悲劇を繰り返さないために、世界から核兵器をなくせようというものでした。

動の年から70年という節目の年に参加できたことを光栄に思います。

一日目は本大会の開会式。日本全国から志を同じくする人たちが長崎の地に集結する中、国連の役員の方々をはじめ、世界各国の関係者など数多くの方々が出席し、世界的な関心の高さを実感しました。考えてみれば当然でした。日本は今、我が国の国是といわれている憲法9条を壊そうとしています。日本が戦争する国になってしまつたらどうか、世界中から注目も集まっていることでしょう。そのような中、本大会に参加している人々の思いは一つ。広島・長崎の悲劇を繰り返さないために、世界から核兵器をなくせようというものでした。



辻強志さん(8月9日、爆心地の前で撮影)



良港と言われる佐世保港の80%が占有、たくさんの軍艦が浮かぶ

最終日は平和公園、長崎原爆資料館を巡ってきました。戦争は二度と起こしてはならない。原爆をはじめ

とろろでみなさんは佐世保という街がどの国にあるかご存知ですか。おそらくみなさんは、日本の長崎

知らないまま 済ませてはいけな

米軍基地の異様さを学ぶ

学び、感じ、声をあげよう

とる大量破壊兵器等はここに存在してはならないことを強く感じました。私自身、家族を守ることが大切なことと心得ています。家族を守るためには命をかけるでしょう。しかし、そのために自ら進んで誰かを傷つけたいとは思いません。Peace From us! No more Nagasaki! No more Hiroshima! No more Nagasaki! No more Hiroshima! No more Nagasaki!

病院内で安全衛生委員会を設置し、毎月定例で委員会を開催しています。特徴的なのは、安全衛生委員会の中に「メンタルヘルス委員会」も作っており、実際は安全衛生委員会とメンタルヘルス委員会を隔月で交互に開催しています。

メンタルヘルス委員会は、6～7年前に看護師のメンタルが原因の離職防止対策として立ち上げたもので、心療・緩和科の部長が入って労使3名ずつ、7名の委員で構成し、メンタル疾患の休職者の状況報告や「メンタルヘルス講演会」の開催などを行っています。今までは府職労選出の委員が推薦する講師を招き、働きやすい職場環境の観点でセクハラ・パワハラのテーマの講演をしたりしていました。最近では費用削減のため外部講師を招くことが困難になっていきます。今年度は、厚労省が創設した「ストレスチェック制度」を秋くらいに実施し、労働者のメンタルヘル

法案を廃案に!

アベ政治を許さない!

8.30 おおさか大集会

8月30日[日] 16:00～

集会終了後17時ころからパレード

扇町公園

(地下鉄「扇町」・JR「天満」下車、徒歩3分)

ローアンのススメ

「私の職場のローアン活動」⑥

病院職場(成人病センター)での労働安全衛生活動

府職労成人病センター支部書記長 東 里美

府職労ろーあん学習会

メンタル不全の休職と職場復帰を考える

～労働安全衛生活動に どういかにするかをみんなで考えよう～

9月4日(金) 19時～20時30分

エルおおさか南館734 (7階)

お話: 藤野ゆきさん (大阪労災職業病対策連絡会事務局)

大阪府の職場でも増え続けるメンタルヘルスでの休業者をどう理解して、どのように対応していけばいいか—各職場の実態も出し合い、一緒に考えましょう。職場からたくさんの参加をお待ちしています。

ス不調の早期発見・未然防止の取り組みを計画しています。成人病センターでは、風通しのよい職場づくりのために府職労委員が提案した「提案箱」が院内3ヶ所設置されています。職場環境の改善や業務改善についての提案をはじめ、職員の見解を幅広く受け付け、意見については委員会での対応をはかることにしています。しかし、十分に活用されておらず、今後の周知・活用が課題となっています。

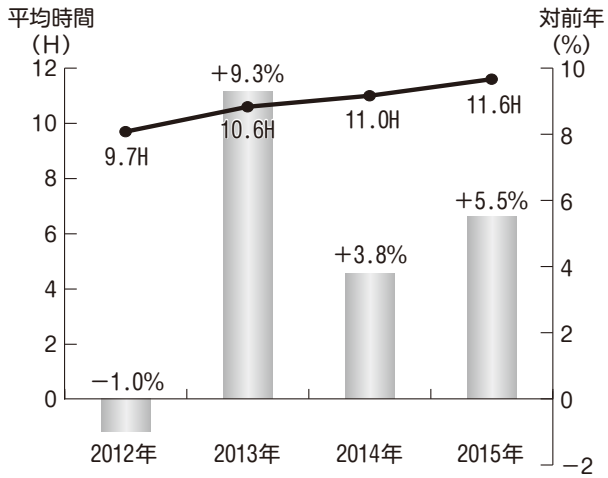
増え続ける残業 職場・マネジメントも限界

7月28日、「時間外勤務の実績(平成27年度第1四半期)」が発表されました。これは今年4月～6月の職員1人あたりの時間外勤務の実績です。職員1人あたりの時間外勤務の実績は、4年で約2割も増え11.6時間となりました。これは今年4月～6月の職員1人あたりの時間外勤務の実績です。職員1人あたりの時間外勤務の実績は、4年で約2割も増え11.6時間となりました。

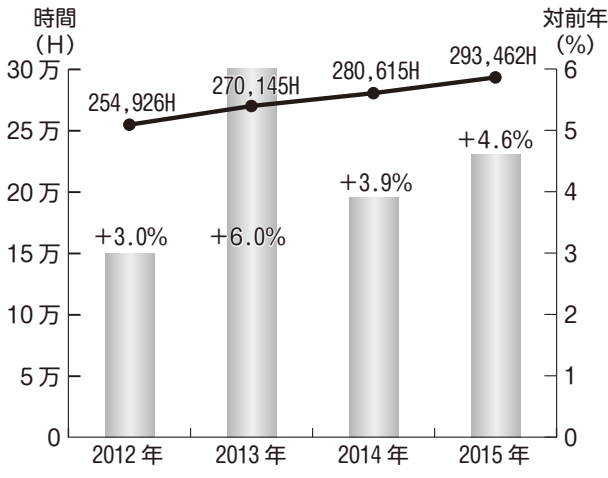
「これは今年4月～6月の職員1人あたりの時間外勤務の実績です。職員1人あたりの時間外勤務の実績は、4年で約2割も増え11.6時間となりました。これは今年4月～6月の職員1人あたりの時間外勤務の実績です。職員1人あたりの時間外勤務の実績は、4年で約2割も増え11.6時間となりました。」

時間外勤務の実績〔第1四半期(4月～6月)〕

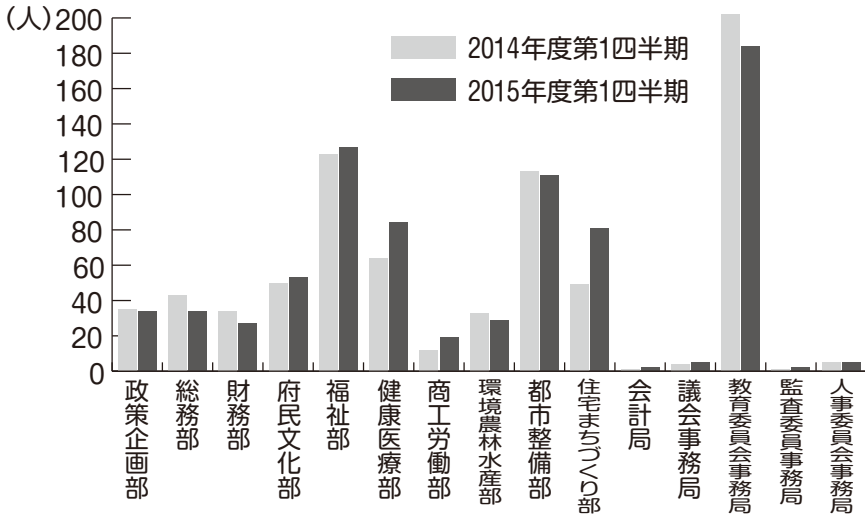
② 1人1月あたりの時間外勤務の平均時間の推移



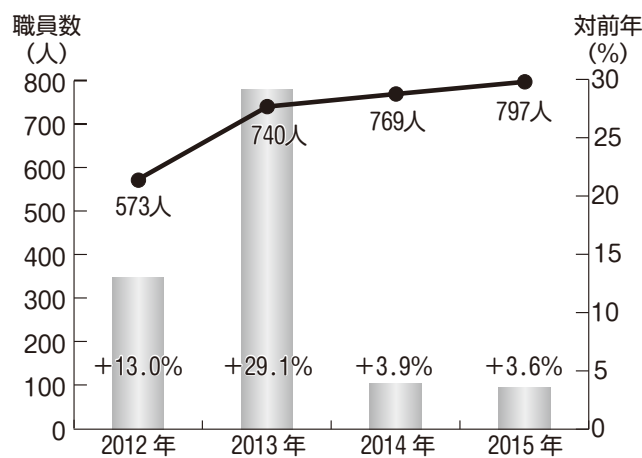
① 時間外勤務の総時間数の推移



④ 部局別 90時間を超える時間外勤務をした職員数



③ 1人年間360時間ペース(第1四半期90時間)を超えている職員数の推移



第61回日本母親大会



1万1千人が参加

8月1日～2日、第61回日本母親大会が神戸で開催されました。日本全国から1万人を超える女性が参加し、府職労から20名が参加しました。

日本母親大会代表委員の長尾ゆりさん(全労連副議長)と笠井貴美代さん(新日本婦人の会会長)が主催者あいさつし、笠井さんは「日本を戦争する国につくりかえるために、分野・世代を超えて広げたい」と強調しました。また「核戦争から子どもを守る」と61年間歩んできた母親運動が新しいうねりを生みました。大いに交流し、地元から戦争法

案に反対する運動をさらに広げましょう」と呼びかけました。

全体会では、弁護士金杉美和さんと神戸女学院大学の石川康宏さんの講演がありました。金杉さんは、「ドイツのヒトラーの側近の「国民を戦争に導くのは簡単、周辺国の脅威を言い、反対者には愛国心を言えはいい」という言葉を紹介し、安倍首相が北朝鮮や中国の「脅威」を強調し、そのことが新聞等でも大きく報道される状況を見て、戦争への道が知らず知らずのうちに開かれていくことに恐怖を感じるお話をしました。」

(女性部長 森かすみ)

生命を生み出す母親は「どの子ども殺させない」

暑かったけど、めっちゃ楽しかった！ サンシャインフェスタ2015

8月8日、府職労と四日市市職労(三重県)の青年を中心に開催した「サンシャインフェスタ2015」に31名が参加しました。猛暑の中でしたが、バーベキューやゲームを通じて楽しく交流しました。

まず3つの班にわかれて自己紹介を行い、そのあとは黒毛和牛をゲットするために食材獲得ゲームを行いました。そのあとは職場や仕事の話などしながら、バーベキューを楽しみました。

府職労から参加した青年からは「職場以外のいろいろな人と交流できるのは労働組合の魅力ですね」「とても楽しかった。また機会があれば参加したい」などの感想が寄せられています。



毎週金曜日 本心に止める。戦争法案に反対する国会前抗議行動(主催:SEALDs)への代表派遣

この間、府労組連(大教組・府職労)は、戦争法の廃案をめざして、学習決起集会の開催、リーフレットの作成、昼休み宣伝、なんば宣伝など、あらゆるとりくみをすすめてきました。衆議院での強行採決を受けて国民の怒りと運動はますます大きくなり、参議院での徹底審議を通じて、廃案に追い込むための運動がますます重要です。

府労組連は、学習・宣伝など職場からのとりくみを強化したたたかいを展開するため、国会前抗議行動への代表派遣をとりくみます。参加希望の方は役員を通じてお問い合わせください。



「天然の良港は米軍が占領しよう。しかし、資料館の中で私の目に」

原爆被災国です。被爆した過去があるからこそ、学び、感じ、伝えられることがあるはず。

戦争法案

とき ところ